



西新潟中央病院

NST NEWS 第12号

NST : Nutrition Support Team

発行日：2014年10月21日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線1303

NST委員会からのお知らせ ～第1回 高齢者の栄養と摂食を支える研究会開催報告～

先月9月23日の火曜日、当院呼吸器部長である齋藤泰晴先生が代表を務める、「高齢者の栄養と摂食を支える会」の第1回研究会（テーマ：高齢者の誤嚥性肺炎を理解しよう）が新潟テルサにて開催されました。当日は佐渡を含む新潟各地から112名の参加者が集まり、非常に活発な研究会となりましたので、その内容についてご報告させていただきます。

1. 講演「誤嚥性肺炎について」 新潟臨港病院 内科部長 坂井邦彦先生 （一部内容紹介）

・誤嚥を引き起こす3つの原因について

- A) **器質的原因**：喉頭・咽頭の腫瘍、口腔の異常、義歯の不適合など
- B) **機能的要因**：脳血管障害、神経疾患、薬剤の影響、筋力低下など
- C) **心理的原因**：認知症、うつ、摂食障害など

・誤嚥性肺炎防止のための対策について

- A) **口腔内細菌の増殖防止**：口腔内清拭、口腔ケア、歯科治療
- B) **嚥下機能評価**：日中の座位保持、摂食・嚥下リハ、食事調整など
- C) **免疫力低下防止**：栄養状態の改善、運動・理学療法、ワクチン接種など



講演の様子

その他誤嚥性肺炎における経管栄養の問題点などを講演していただき、非常に好評でした。

2. 症例懇話会 臨床倫理4分割表：MPQCモデルを用いた多職種カンファレンス

研究会の後半では参加者がグループに分かれ、「意思疎通不能な嚥下障害患者に経管栄養をすべきかどうか」をテーマに、提示された症例について検討を行いました。

MPQCモデルとは？

ある症例の倫理的課題について下のような4分割表を用いて検討するもので、問題の認知と分析、具体的な対応について多職種で検討することができます。

医学的適応 (診断と予後など)	患者の意向 (事前の意思表示など)
QOL (何が患者にとって最善か)	周囲の状況 (家族や経済面など)



多職種カンファレンスの様子

参加者は医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、介護士、歯科衛生士と多岐にわたっており、それぞれの職種の立場から活発な意見交換がなされ、非常に有意義な検討会となりました。

(文責：栄養管理室 澤田周矢)